

# 陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 39 2010.6.15

第4号(24年9月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

## 八月の思ひ出

中山正善

一年のうちで、八月といふ月は、必ずしもよい季節ではない。特に大和のやうに、山に囲まれながらも山岳地帯とは呼ばれない土地にあつては、ことさらである。この暑い八月がなかったならば、どんなに大和は住みよくなるだろう、などと勝手な愚痴をこぼしたものであるが、この八月の暑さがなければ、よいお米も頂けないのだから、我慢するよりは感謝すべきであるとの論理も成り立つ。



然しながら、いくら理論上は有難くとも、実際その気持ち起きなかつたならば、なんとかならない。自然の運行であるから、それ自体に意義があると考へられても、その運行によるこんで順応し得なかつたならば、単なる空言に終つてしまう。八月の暑さを

感謝するのは、この空言に近いのではないか。仮令、お百姓さんにしても、収穫のよろこびよりも、修理の努力に汗を流すは、必ずしも希望するところではなく、出来るものならば、修理の苦勞をなくして、万作のよろこびをと、勝手な願ひに陥ることであろう。

しかし、この悪季節の八月にも、理論附けの意義や追つ被せの感謝ではなく、心から待ちに待っていた頃があつた。それは子供のころの夏休みである。今日の学制による教育をうけている人々とは、一寸ピントが合はぬかも知れないが、私達の頃には、夏休みといへば、その暑さを厭ふと云ふよりも、学校から解放されて、勝手に起き臥すことの自由を許された喜びの方が大であつたわけである。

なつかしい 山見ゆ

なつかしい 野辺見ゆ

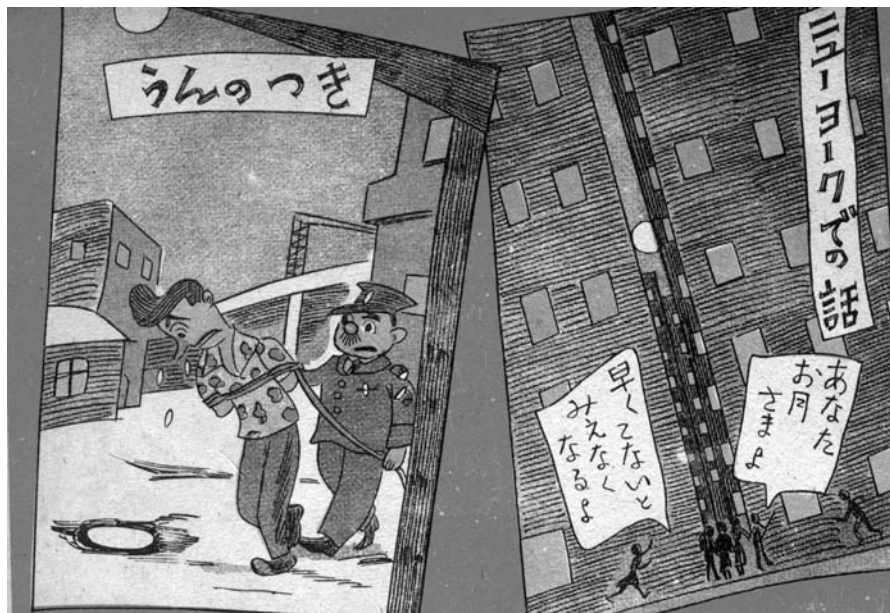
と云ふ中学唱歌の如きは、今なほ忘れ得ないものであり、笈を負ふて学をもとめた人々にとつて、生涯忘れ得ない、よろこびの夏休みであつた。そして孫さへ持つやうになつた初老の人々が、この歌によつて昔の子供にかへり、年を忘れ、唯一つに心を燃えたたすのは、その頃味わつたこの八月の夏休みであつた。

夏休み！ 私達の子供の頃の夏休み！ そこには何の蟠りもなく、僅かな費用で海にも山にも旅行ができた。

初めて遠出の旅に出たのも、八月の休暇中であつた。母につれられて、姉と二人、初上りの東海

道の窓より、下手な富士を描いて、留守番の父を喜ばせたのも、日光の滝や山を巡つたのも、みな八月の出来事であつた。また、北海道へ行ったのも、九州へ行ったのも、何れも八月が最初であつて、今日になつての思ひ出も、その後の訪れよりも此の夏の思ひ出が一番強いものである。

(後略)



# 信仰例話 (道友社刊『真実の道』より)

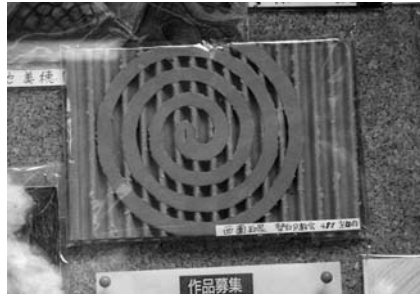
お起ちなさい

一九五〇年二月十日午後四時のこと、本部南礼拝殿に参拝せる西本権八という人があった。その人は昨年五月中毒のため、家族三人を失い、辛うじて残ったのであり、そのために膝下より下の自由を奪われ、立つことすら出来ず、全くその身を怨んでいたのである。

勿論、その時の参拝には他の人の肩にすがって来た。そして、たま／＼神殿当番奉仕中の本部長K氏にお取次を願ったのである。

K氏は「貸物借物の理」(一切は神から貸し与えられているという理)病のもととは心からという理を二十分間とりつき、六カ月間働けないことは何時まで働けないかわからな

い。みかぐらうたのくわしもこれからひのきしん〃の御手は鉢巻の型、是は頭を堅めるという悟り方である。そのため方は欲を忘れることが必



ハガキアートコンテスト(「南右第2棟企画課」募集)のPR展示 (天理本通 天理ふしん社向かい)

要である。あなたも月々の働きの中より半分は神様へのひのきしんをさせて頂くという心定めをされる必要がある。と取次がされた。彼はこれを快く誓った。

K氏はそれからおさづけを

両手と両足にとりつがれた。

願い終ってから彼に向い一声「お起ちなさい」と叫んだ。

西本氏は両手をついて腰を少し上げ、三度両足に力を入れて三度目には奇蹟的にも起ち上ることが出来た。その前に並び居た数十名の修養科生は目のあたりに見た輝かしい御守護に泣きながら神様に御礼申し上げていた。

西本氏は再び起ち上り、三歩、五歩と神前に進み出た。頬に伝う喜びの涙もぬぐいあえぬ様子であった。

(奇蹟台帳)

やむほどつらいことはないわしもこれからひのきしん

(三・八)

よくをわすれてひのきしんこれがだいゝちこえとなる

(十一・四)

ふうふそろうてひのきしんこれがだいゝちものだねや

(十一・二)

改訂新版出来

# 天理教用語辞典

お道の言葉が正しく理解できる

すぐに役立つ一冊!

岸 義治 著

初めて話を聞く人に  
修養科の参考書に  
おたすけに

B 6 変形 198 頁  
定価=630 円 (税込)  
〒150

図書出版 養徳社  
天理市川原城町 388  
☎(0743)62-4503  
http://yotokusha.com/

「陽気」創刊 60 年記念出版

## 人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260 円 (税込) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

## 道の八十年

—松村吉太郎自伝—  
天理教の歴史とともに  
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680 円 (税込)  
(高安大教会初代会長) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

## お道の人のおとておきの話

お道の人のおとておきの話 52 話

朝席・夕席に最適です

定価=1,260 円 (税込) 送料 200 円

養徳社 よもやま話

〇月〇日 広島「陽気ラームン」に行ってきた。笠岡大教会所属の熱心なようぼく家族がやっておられる店だ。赤地に白抜きで「陽気」と書かれた暖簾をくぐると、腹がグウと鳴った。メニューは中華そばのみ。創業から52年、引き継がれているやさしい味が舌に残った。弊社の「陽気」も末永く皆さんに愛され続けてほしいと思った。



〇月〇日 事務所の空調設備の清掃をした。今年は、取扱説明書に従い、出来る範囲で分解清掃をしたが、ススのような真っ黒な埃の山にびっくり!! 長年の埃を払い、試運転をすると、独特のにおいがマシになった。心の掃除も小まめにしないと恐ろしいこと!! と思いました。

「陽気」年決め誌代のご案内

5月号より、一部定価二百円(税込)に改定いたしました。年決め誌代は次の通りです。

【半年分】一、六〇〇円  
【二年分】三、二〇〇円

(一部送料共)